

非稼働病棟の現状について  
(令和3年県独自調査結果)

医療圏	医療機関名	病棟名	病床数	非稼働開始時期	予定	再開時の機能	具体的な時期	非稼働理由	解消に向けた取組	備考
尾張西部	総合大雄会病院	中館5階	8	2018年1月	再開予定	急性期	2024年4月	透析治療を担う複数名の腎臓内科医師の採用が計画通りに進まず、当初計画が遅れている。また、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響が大変大きく、将来の収支計画を見直さざるを得なくなり、診療科の移転と8床の稼働は数年後になると考えている。	腎臓内科医師の採用、資金計画の見直し。	
	稲沢市民病院	3階北病棟	32	2019年10月	再開予定	急性期	2023年4月 (コロナ終息後)	病床稼働率が低かったため、医療スタッフを集約するため一時的に休棟。	3回北病棟を一時的に休棟した後、新型コロナウイルス感染症がまん延し、感染症患者を受け入れるため診療制限をせざるを得なかった。新型コロナウイルス感染症終息後、診療制限を行っていた患者を受け入れていく。	
		4階北病棟	46	2014年11月	廃止予定			2022年3月	2019年4月に開床の計画であったが、医療スタッフ(特に医師)が思うように確保できなかったため。	主に高齢者を対象とした転倒による骨折治療に特化した専用病棟「転倒骨折センター」の開設準備を進めている。この中で、4階北病棟の一部病室を使用することで、4階を1病棟として運用する予定である。